

ぐるだいのニュース

第 18 号
(2000 年 7 月 10 日)

発行所：〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西 2-3-1
北星学園大学社会福祉学部（鹿内研究室）
日本グループ・ダイナミックス学会
電話・Fax:011-896-7560
発行人：大坊郁夫 編集担当：堀毛一也

★★ 日本グループ・ダイナミックス学会第 48 回大会へのご案内 ★★

大会委員長 東洋大学社会学部 中里 至正

この 9 月 30 日（土）と 10 月 1 日（日）に東洋大学で開催される予定の日本グループ・ダイナミックス学会第 48 回大会が近づいて参りました。われわれスタッフ一同も、大会の成功を目指して、緊張の度を徐々に高めつつあるところです。

今回の大会では、ロング・スピーチが 6 件、ショート・スピーチが 36 件、パネル発表が 50 件と、発表の総数が 92 件となっております。これらの研究発表のテーマは、きわめて基礎的なものから今日的なテーマまで実に多種多様です。この幅の広さは、きっと多くの会員の皆様にご満足いただけるものと思っております。

加えて、4 つのワークショップと 1 つのシンポジウムが計画されております。ワークショップのテーマは、現在のところ「彷徨するワーキング・ウーマン：諸井克英先生（静岡大学）」、「社会的意識決定と法、心理学：黒沢 香先生（千葉大学）」、「エイズに対する様々なアプローチ：西 和久先生（名古屋大学）」、「関係性から見る自己と集団の関係：杉森伸吉先生（東京家政大学）」となっております。いずれも興味深いテーマで、実践的な話題を提供していただけるものと期待しております。

また、第 1 日目の午後に予定されているシンポジウムは、日常生活における「迷惑」と関連するいくつかの問題を取り上げます。現在のところ、吉田俊和先生（名古屋大学）、角山 剛先生（東京国際大学）、川上善郎先生（成城大学）のお三方に話題の提供をお願いしております。車内での携帯電話、人目をはばからぬ「親密」な行動、組織内でのセクハラ、匿名性に助けられたインターネットで「活躍」する人など、昨今「迷惑」についての話題には事欠きません。なぜ一部の人はこうした「迷惑」行為をするのか、そして周囲の人はなぜそうした行為を「迷惑」と感じるのかなどなど、いろいろな側面から「迷惑」についての論議を深めたいと考えております。

なお、大会の第 1 日目の夕方には学内の 16 階ホールでの懇親会を予定しております。それなりのお食事とお酒と、そして上から見た東京の下町の夜景などをお楽しみいただければと思っております。多くの方々のご参加を心からお待ちしております。最後になりましたが、本大会に関連するお問い合わせは、ご遠慮なく下記の所へご連絡下さい。

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20 東洋大学社会学部社会心理学学科
日本グループ・ダイナミックス学会大学 48 回大会準備委員会
FAX: 03-3945-7626（社会学部事務局）e-mail: gd2000@soc.toyo.ac.jp

皆様お誘い合わせのうえ、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

★★ 会長選出規定（細則）改正のお知らせ ★★

会長 大坊 郁夫

「ぐるだいのニュース 17 号」に掲載された常任理事会議事録にもありますように、常任理事会では、従来の会長選出規定（細則）の改正を検討してまいりました。細則改正は理事会の決定において発効いたします。先の常任理事会以降、理事の持ち回りによる会議を行いましたところ、原案について全員一致で賛成をいただきました。つきましては、今年度の役員選挙から、改正案に基づいて選挙を実施することになりますので、皆様ご留意くださいますようお願い申し上げます（附則として、「この改正細則は、2000 年 5 月 1 日から発効する」を加えます）。

提案の理由は、より多くの経験を積んだ人材の登用を可能にし、学会運営の安定を図るということです。現行の細則では、会長候補者が少数となる可能性が高く、被選挙対象者枠を常任理事経験者に広げることにより、学会運営の継承性を保ちながら適任者が得やすくなると考えられます。

この改正は学会運営の根幹にかかわる人材についての事柄であり、本来なら総会にて慎重に会員の皆様のご意見を伺うべき事柄ではありますが、選挙日程が間近に迫っていることもあり、今回のよう

な措置をとらせていただきました。会員の皆様には、ホームページ、ぐるだニュース、及び、選挙関係文書送付の際に、遍く承知していただけるよう努めてまいります。なお、今回の細則改正につきましては、直近の総会にてあらためて経緯を報告させていただきます。また、改正に伴う会則細則の不備等につきましては、次期役員にあらためて検討、改正をお願い致したいと思います。趣旨をご理解のうえよろしくご協力賜れば幸いです。

会則細則第 19 条 3 項 (b)

現 行：「・・・会長となるべき 1 名は就任すべき期の直前の期に常任理事であったものを候補者として・・・」

改正案：「・・・会長となるべき 1 名は就任すべき期の直前の 2 つの期のいずれかに常任理事であったものを候補者として・・・」

したがって、会長候補は、今期常任理事（橋口捷久、堀毛一也、村田光二、鹿内啓子、外山みどり、山岸俊男）および 前期常任理事（杉万俊夫、黒川正流、外山みどり、山口勸、山本真理子、矢守克也）の 11 名です。

なお、前会長（杉万俊夫）は常任理事枠に含まれますが、現会長（大坊郁夫）は、規定（会則第 9 条）により候補から除かれます。

なお、選挙管理委員会委員長は北星学園大学の濱保久先生に、委員は酪農学園大学の山田弘司先生と北星学園大学の栗林克匡先生をお願い致すことになりました。選挙は以下のような日程で行われる予定です。

選挙人台帳の会員への送付	6 月 2 8 日
台帳変更締め切り	7 月 1 3 日
投票用紙の会員への送付	7 月 2 2 日
投票締め切り	8 月 7 日必着
開票	8 月 8 日
選挙完了	8 月下旬

皆様充分ご留意の上、多数ご投票ください。

★★ 常任理事会・常任編集委員会報告 ★★

◆ 2000 年度第 1 回常任理事会

日時：2000 年 5 月 20 日 10:00～14:00

場所：北星学園大学 研究棟 4 階 共同研究室

出席者：大坊郁夫、橋口捷久、堀毛一也、村田光二、外山みどり、鹿内啓子

欠席者：山岸俊男（出張）

【報告事項】

1. 日本学術会議会員選出に係る推薦人会議
2000 年 5 月 9 日（火）に日本学術会議において当会議が開催され、外山みどり、鹿内啓子の両常任理事が推薦人として出席した。
2. 予算執行状況、会費納入等
1999 年度決算（案）は、次回の常任理事会で報告される。
3. 地区活動
活動の報告はない。
4. 広報
・学会の目的、沿革、活動状況、入会申込書などを載せた学会のしおりを作成した。これは、近々会員に配られ、またホームページにも掲載された。
・学会のホームページは、学会の活動報告、各種研究会の案内、役員リスト、大会記録など、これまでより充実したものとなった。1 ヶ月間で約 600 件のアクセスがあった。
・「ぐるだニュース」18 号は、6 月末に発行予定である。
5. AASP 関係

AASPの活動状況の報告がなされた。

6. 賛助会員依頼関係

賛助会員の依頼を積極的に行うこととなり、まず20余の機関に依頼文書を送ることとなった。

7. その他

寄贈依頼：(財)阪神・淡路大震災記念協会から、「実験社会心理学研究」39巻2号の寄贈依頼があり了承された。

科学研究費補助金：2000年度は残念ながら認められなかった。

【審議事項】

1. 会員の入退会

入会および退会希望者はすべて承認された。今後退会者に対して、それまでの会費を精算するように求めることとなった。

2. 会長選出細則改正(第19条3項)

「ぐるだいニュース」17号の常任理事会報告に記されているように、会長候補者を「就任すべき期の直前の2つの期のいずれかに常任理事であった者」とする会則細則第19条3項の改正について、理事全員の承認が得られた。7月末から8月始めに行われる会長選挙から適用される。

3. 会計年度等細則の見直し

会則細則第26条「監査は毎会計年度末に会計監査を行い、翌年の総会に報告してその承認を得る」を現状に則して、「・・・翌年度の総会に・・・」に改正することが決められた。

会則細則第27条「会計年度の予算案は理事会が決定し、その年度の総会の承認を得る」について、現状のように次年度の予算案でも、その年度の予算案でも可能であるように、「会計年度の」の部分を除くこととなった。

これらの改正案について理事の承認を求めることとなった。

4. 役員選挙関係

選挙管理委員会および委員長の人選については、選挙管理委員長として、濱保久氏、管理委員として山田弘司氏と栗林克匡氏に依頼することにした。会長および理事選出のための投票期間は7月下旬～8月上旬である。

5. 優秀論文賞の選考関係

昨年と同様の日程で、選考作業を進めることとなった。なお、「ぐるだいニュース」

16号に記されたように、今年度から若手部門と一般部門の区別をせず、原則として1本の論文を選考することになった。

6. 三隅賞選考関係

本学会からの選考委員を、昨年度と同じく、大坊郁夫会長、山岸俊男常任理事、山口勸特別編集委員の3名にお願いすることになった。

7. 実践会員制度

常任理事会では、実践会員制度については、その意義を認め制度実現の方向で一致したが、具体的な検討の時間的制限もあり、次期役員に委ねることとした。

8. 次期AASP大会(2001年7月 オーストラリア)における企画案

AASPから本学会に、企画の要請があり、山岸俊男常任理事を中心に検討することとなった。

次回の常任理事会は、8月28日(月)14:00～を予定している。

◆2000年度第1回「実験社会心理学研究」常任編集委員会

【審議事項】

1. 投稿・審査状況

現在審査中の論文は20本あり、このうち過年度までの受稿分が18本、今年度の受稿分が2本である。この他、審査者が未決定の受稿論文が2本ある。今年度に入ってから著者による取り下げ論文は1本、rejectされた論文はない。

「実験社会心理学研究」40巻1号には原著論文6本、展望論文1本、書評1～2本が掲載され、6月下旬から7月上旬に刊行される予定である。

2. 論文種別について

審議の結果、以下のように論文の種別の定義とページ数が決められた。

原著論文：グループダイナミックス、社会心理学における理論的・実証的・方法論的研究、基礎・応用研究、定量的・定性的研究に貢献する未公開の論文。
刷り上がりは、原則として10ページ以内。なお、編集委員会が必要とみなした場合にはこの限りではない。
資料論文：過去の研究成果に対する追加・吟味、新事実の発見、興味ある観察、少数の事例報告、または装置や方法に関する未公開の論文。
刷り上がりは、7ページ以内。
展望論文：最近の重要テーマについて、内外の研究状況、その主要成果、問題点などを解説することを目的とする。
刷り上がりは、原則として16ページ以内。
なお、編集委員会が必要とみなした場合にはこの限りではない。
原著論文と展望論文について、規定のページ数を超過する場合には、超過分1ページにつき1万円を著者が負担する。

3.特集テーマ

これまでのところ、会員からの提案もなく、また、常任編集委員会からの提案もないことから、今年度は特集を設定しないこととした。

4.書評

現在3本の書評が依頼されている。

★★ 実験社会心理学研究 第40巻1号掲載予定論文 ★★

<一般論文>

【原著論文】

下斗米 淳 友人関係の親密化過程における満足・不満足感及び葛藤の顕在化に関する研究－役割期待と遂行とのズレからの検討－
山浦 一保 部下の行動とリーダーの管理目標がリーダー行動に及ぼす影響－リーダー行動の変容・形成過程に関する研究－
北折充隆・吉田俊和 違反抑止メッセージが社会規範からの逸脱行動に及ぼす影響－大学構内の駐輪違反に関するフィールド実験－
和田 実 大学生の恋愛関係崩壊時の対処行動と感情および関係崩壊後の行動的反応－性差と恋愛関係進展度からの検討－
渡邊としえ・渥美公秀 阪神大震災の被災地における「まちづくり」に関するフィールドワーク－西宮市安井地域の事例－
大河内茂美・杉万俊夫 リーダーシップPM行動の効果性に関する数理モデル－生産関数に基づく力学モデル－

【展望論文】

野村 竜也 オートポイエシスの数理的記述に関する展望

★★ 事務局からのお願い ★★

◆実験社会心理学研究の特集テーマ募集

事務局では、実験社会心理学研究の特集号テーマを随時募集致しております。詳細は事務局までお問い合わせください。

◆実験社会心理学研究の書評候補募集

事務局では、実験社会心理学研究の書評の候補となる著作を随時募集致しております。よい本がありましたら事務局までご推薦ください。

★★ 学会・研究会等の情報掲示板・新刊紹介 ★★

◆東北地区研究会

大淵憲一先生の主催する平成12年度第1回の研究会が6月17日(土)に仙台市の茂庭荘で開催されました。発表者と演題は以下のとおりです。

- ・田中堅一郎(広島県立大学経営学部)
「職場に対する従業員のささやかな抵抗：組織報復行動の研究」
- ・倉元直樹(東北大学アドミッションセンター)
「巨大組織のマネジメントとしての教育政策」
- ・水田恵三(尚絅女学院短期大学人間関係科)
「セクシュアル・ハラスメントにおける状況の拘束性」
- ・張艶冬(東北大学文学研究科)
「日本人一般従業員と中国人研修生の仕事観の違い」
- ・小林宏美(東北大学文学研究科：心理学)
「対人葛藤解決における宥和行動の有益性」

(東北大学 林 洋一郎)

◆九州地区

九州心理学会第61回大会が11月18日(土)、19日(日)、九州大学で開催されます。

最近のわが国の科学技術力の低下や相次ぐ事故やミス・不祥事、さらには少年の犯罪などは、すべて組織の安全に対する脅威という共通の視点から捉えることが出来ます。そこで、新たに「組織安全学」に関する研究会をスタートしたいと思っています
(熊本大学 吉田道雄)

◆新刊紹介

- ・坂元 章(編) インターネットの心理学 - 教育・臨床・組織における利用のために -
学文社 181頁 1900円(＋税) 2000年5月20日刊行

インターネットの使用によって人間や社会がどのような影響を受けるか、また、それを人間や社会のために、どのように利用できるかについて、心理学やその近接分野で行われてきた研究を紹介しながら論じています。本書によって、この分野の先端的な動向はかなり把握できるのではないかと思います。
(お茶の水女子大学 坂元 章)

- ・ダック,S(和田 実訳) コミュニケーションと人間関係 ナカニシヤ出版
2000年4月発行(Duck,S 1998 Human relationships 3rd ed. Sage)

親密な人間関係研究のリーダーの一人とも言える Duck,S の定評あるの表題書の翻訳。著者のもとで親しく研究をしてきた訳者ならではの綿密な翻訳書。

- ・西川正之編 援助とサポートの社会心理学 北大路書房
2000年5月発行(高木修監修 シリーズ 21世紀の社会心理学 4)

援助、サポート研究の最新のアンソロジー。近年の研究動向を踏まえて、学校、高齢者、災害、サポートのあり方、今後の像をも踏まえた力作(3月に急逝された西川先生の最後の編著)。
(大阪大学 大坊郁夫)

★★ 公募情報 ★★

- ※ 募集先 名桜大学国際学部
- 専門分野等 社会心理学：教授、助教授または講師(40歳まで)
- 締切日 2000年7月31日
- 連絡先 学校法人名護総合学園法人事務部総務課 0980-51-1100

- ※ 募集先 神戸大学文学部
専門分野等 社会心理学とその関連領域：教授（５５歳前後の者が望ましい）
締切日 2000年8月25日
連絡先 神戸大学文学部庶務係 078-803-5591
- ※ 募集先 静岡大学情報学部
専門分野等 情報マネジメントまたは認知科学：助教授または講師（３５歳以下が望ましい）
締切日 2000年8月31日
連絡先 静岡大学情報学部 梅谷征雄先生 053-478-1452
- ※ 募集先 名古屋大学大学院教育発達科学研究科
専門分野等 文化心理学：助教授（３５歳以上４５歳未満）
締切日 2000年8月31日
連絡先 名古屋大学教育発達科学研究科 吉田俊和先生 052-789-2651
- ※ 募集先 札幌学院大学人文学部
専門分野等 心理学：教授、助教授または講師（社会・文化的アプローチによる実証的な研究を行っている者）
締切日 2000年9月30日
連絡先 札幌学院大学学務課 011-386-8111

★★ 学会ホームページについて ★★

本学会のホームページは学情センターへ移設されました。リンク先は以下のとおりです。掲示板もそのまま移設されておりますので、ご意見等、どしどしお寄せください。

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jgda/index-j.html>

★★ 広報担当からのお詫び ★★

広報担当（堀毛）の手落ちにより、学会のホームページ移設後、新規掲載されましたニュースレター（HP版）に、会員情報をそのまま掲載してしまいました。会員からのご指摘により、直ちに削除いたしました。プライバシーに関わる情報を掲載してしまい、誠に申し訳なく存じます。この場をお借りして、ご迷惑をおかけした先生方にあらためて深くお詫び申し上げます。

◆投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見◆

北星学園大学社会福祉学部（鹿内研究室）

〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2-3-1 北星学園大学社会福祉学部

電話：011-891-2731 Fax：011-894-3690 E-mail：z00119@hokusei.ac.jp

◆ニュースレターの編集・記事の投稿◆

岩手大学人文社会科学部堀毛研究室

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-34 岩手大学人文社会科学部

電話・Fax：019-621-6842 E-mail：kekehorii@iwate-u.ac.jp QGB03376@nifty.ne.jp

（編集後記）夏休みを間近に控え、みなさま如何お過ごしでしょうか。盛岡は蒸し暑さが続いています。南欧も記録的な猛暑だとか。今年も厳しい夏になるのでしょうか。

本号の巻頭には、次回大会の委員長を勤められる中里先生からご挨拶をいただきました。ありがとうございます。盛会を期待いたしております。皆様お誘い合わせの上、多数ご参加ください。また大会前の8月には役員選挙があります。投票もお忘れなく！

ニュースレター担当として2年間、多くの先生方に本当にいろいろとお世話になりました。ご協力の段、あらためて厚く御礼申し上げます。協力者もない孤立無援な状況での作業でしたので、毎回事務的な内容ばかりになってしまい誠に申し訳なく存じます。何卒ご容赦ください。HPの件も、あらためて深くお詫び申し上げます。次号は新役員により大会後の発行となる予定です。みなさまご健勝にておすごしください。
